

PRESS RELEASE



2022年10月吉日

インターメディアテクデザイン企画 特別展示

『被覆のアナロジー — 組む衣服 / 編む建築』

Intermediatheque Design Special Exhibition

Analogy of Couture Constructing Garment / Knitting Architecture

JPタワー学術文化総合ミュージアム
インターメディアテク

名称: インターメディアテクデザイン企画 特別展示
『被覆のアナロジー — 組む衣服 / 編む建築』

会期: 2022年11月5日(土) — 2023年4月2日(日)

時間: 11:00-18:00 (金・土は20:00まで開館)

*時間は変更する場合があります。

休館日: 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日休館)、年末年始、
その他館が定める日

*詳細は当館ホームページの開館案内をご覧ください。

会場: インターメディアテク2階「GREY CUBE(フォーラム)」

主催: 東京大学総合研究博物館

共催: 株式会社 Ri Design 隈研吾建築都市設計事務所

協力: スタイルム瀧定大阪株式会社 株式会社ユニコ
モリリン株式会社 株式会社ワークスタジオ
株式会社七彩

入館料: 無料

住所: 東京都千代田区丸の内 2-7-2 KITTE2・3F

アクセス: JR東京駅丸の内南口から徒歩約1分

東京メトロ丸の内線東京駅地下道より直結

千代田線二重橋前駅(4番出口)より徒歩約2分

お問い合わせ: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

国外からは +81-47-316-2772

この度、JPタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」では、インターメディアテクデザイン企画 特別展示『被覆のアナロジー — 組む衣服 / 編む建築』を開催いたします。

本展は、ファッションデザイナーの江角泰俊氏と建築家の隈研吾氏およびインターメディアテクとの企画による世界初公開展示になります。

衣服と建築は、異なる分野であっても人間の活動においてはいずれも「まとう」ことを定義する創作物です。衣服であれば身体を包み、建物であれば人々の営みを包む。両者は広く人間の活動を取り巻く「被覆環境」と位置づけることができます。

近代以降、工業化による生産プロセスの効率化と分業化によって、両者は均質化した交換可能な商品として生産され、流通し、消費されてきました。その結果、人間を取り囲む「被覆環境」から身体感覚や多様性は大きく失われることとなりました。一方、近年ではモノ中心の消費よりも体験や共感に価値が置かれるようになり、「被覆環境」においても住む・着るという素朴な体験の中にある魅力、即ち身体感覚を中心に据えた価値観に立ち戻る動きが見られます。このような社会の変化の中で従来のデザイン手法を見直し、新しく再構成することに意義があるのではないかと、ブラックボックス化した複雑なデザイン・生産のプロセスを、編む・組むといったプリミティブな手法によって透明化し開放すること。そして、透明性の確保による副産物として、生産から流通、消費、廃棄、再生産といった循環型プロセスによる持続可能性の担保が可能となると考えます。

「被覆環境」を取り巻く今日的な課題は共通しており、領域を超えたデザインによる提案が求められています。「組む衣服 / 編む建築」は衣服と建築に類似する構造的・組織的な成り立ちに着目し、生産技術の発展による自由度の向上、環境負荷に配慮した自然素材の利用、再生繊維や材料のリユースなど、有機的に統合された新しいデザイン手法を提示しようとする試みです。

Analogy of Couture

Constructing Garment / Knitting Architecture

インターメディアテークデザイン企画 特別展示
被覆のアナロジー —
— 組む衣服 / 編む建築

YASUTOSHI
EZUMI

KENGO
KUMA



STYLEM

UNICO

MORIRIN
The Standard



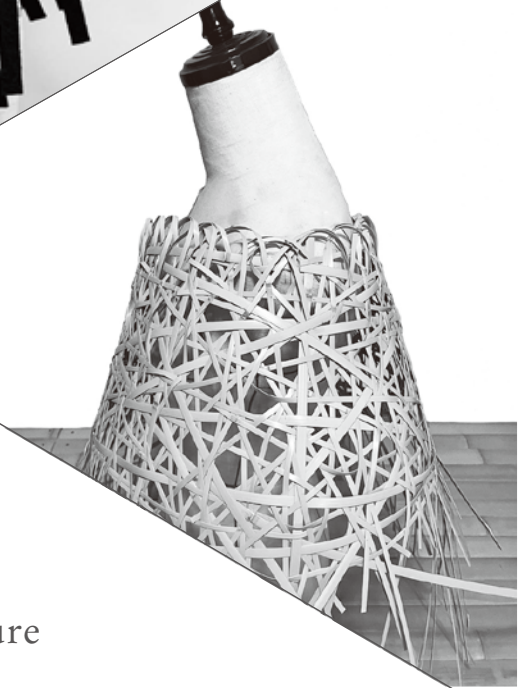
NANASAI CO.,LTD.

INTERMEDIATHEQUE



imt INTERMEDIATHEQUE

YASUTOSHI
EZUMI



Analogy of Couture

Constructing Garment / Knitting Architecture

Analogy of Couture

Constructing Garment / Knitting Architecture



KENGO
KUMA

